

## 地方間交流の拡大で旅行需要を牽引 9月には友好都市・新瀉で観光セミナー

今年で20年目の新瀉／ハルビン路線

中国の黒龍江省旅游發展委員会と中国国家観光局駐日本代表処は今年9月、新瀉市で黒龍江省観光セミナーを開催する予定です。

今回のセミナーでは、現地側関係者らが最新の観光情報を紹介し、今年で開設から20年目を迎えた新瀉／ハルビンの定期航空路線を軸にした日中の観光交流拡大に向けて、中国を訪れる日本人旅行者の拡大を目指すこととなります。

新瀉／ハルビン線は、日本国内の都市と黒龍江省の省都を結ぶ唯一のノンストップ路線として、1998年6月に定期便が就航して以来、首都圏に住む中国東北部出身の中国人の帰省路線として定着し、その後、中国からの訪日旅行需要が急増したことなどから、

2015年9月にはデイリー運航が実現されるまでになりました。

新瀉県では、ハルビンと中国国内の近隣都市を結ぶ高速鉄道を活用した訪日旅行需要の促進を目指す一方、定期路線の安定的な維持に向けて、中国を訪れる日本人旅行者の増加を図るため、黒龍江省側にも新瀉県を中心に中国への日本人旅行者の誘客促進活動を行うよう働きかけていました。

### 観光インフラも進む大自然の宝庫

日本との長い交流の歴史を持つ黒龍江省は、新瀉県だけでなく、北海道山形県とも友好協定を結んでおり、ハルビンから日本への定期便乗り入れ都市も現在は、新瀉・大阪・名古屋の3都市を数えています。

昨年11月に来日した中国国家観光



黒龍江省・チチハルのジャロン自然保護区にはタンチョウツルも生息



シラカバの樹皮工芸品をつくる少数民族・オロチョン族の人たち



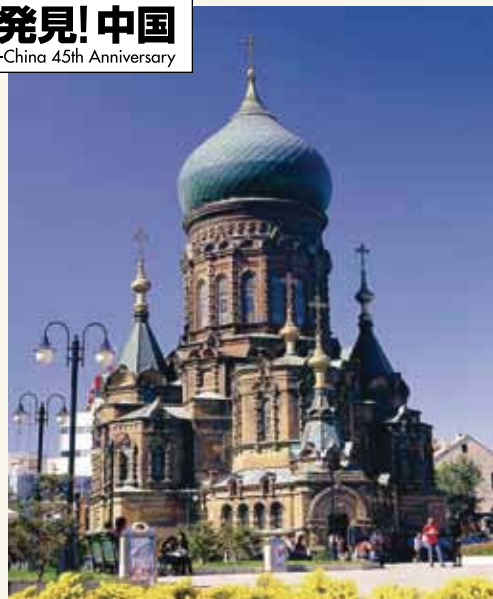
ハルビンからの訪日旅行者で賑わう新瀉空港

局の李金早局長は、石井啓二国土交通大臣と双方方向の観光交流拡大などを内容とする覚書に調印しており、地方間交流は青少年交流と文化・スポーツ交流とともに、日中間の3つの架橋の一つとして役割を果たすことが期待されています。

黒龍江省と新瀉県は1983年に友好協定を締結して以来、官民による積極的な交流活動を展開しており、新

今年9月に新瀉市で開催が予定されている黒龍江省観光セミナーは、中国最北端の省として国境を接するロシア文化の影響も色濃く漂う一方で、果てしない平原と草原、山々を覆う森林、火山地形など豊かな自然の宝庫でもある同省の魅力を一瞥し、中国への旅行需要拡大を目指すものです。

高速交通網や宿泊施設の拡充など観光インフラの整備が進んだ黒龍江省の豊富で多様な観光資源を活用した商品造成を通じて、旅行会社による市場開発や需要創造が進むことも期待されています。



ハルビンに残る欧風建築物の象徴的存在である聖ソフィア大聖堂



毎年1月から2月にかけて開催される「ハルビン冰雪まつり」



中国最北の黒龍江省・北極村に出現するオーロラ